
満月集会

クク サ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

満月集會

【Nコード】

N9714Q

【作者名】

クク サ

【あらすじ】

ハイテンション深夜ガールズトーク。

あ、会話のみ文章です。キャラ練り練習の為の文章だったり。

いつかいめ。(前書き)

出演者一覧

- ・カナミ ハイテンション馬鹿
- ・やえ 毒舌無口厨二
- ・ひより とつきーの姉 独特なテンポ
- ・とつきー ひよりの妹 貴重なツッコミ

いつかいめ。

「毎月恒例のパジャマパーティーはーじまーるよー！」

「前回私いなかったんだけど、いつから恒例になったんだ？」

「私もいなかったよー？ちなみに前はどんなメンバーでやったたのー？」

「今回から恒例にしていく予定です。」

「なんとこの見切り発車……。」

「そこほそつと言わない！」

「しかも怒られたし。」

「とりあえず」あつ、今日は満月なんだ『って気づいたら集合ねー。』

「うん、まあ、とりあえず、雑、だよな。」

「カナミちゃんらしいよー。」

「……馬鹿？」

「疑問形じゃなくてもいいんじゃない？」

「あははー、みんなひどいよー。」

「なんだかどんだん私が貶められてる気がするけど、記念すべき第一回目開催……！」

「……。」

「……。」

「……。」

「……え？」

「何この空気？ねえねえみんなそこは空気読んで『いえーい』とか『パチパチ』とかなんかあるでしょ？」

「分かった。そのテンションまで上げなきゃいけないのね。OK。次から頑張る。」

「おー、やえつち！流石頭が良いだけあるね！（？）」

「と、いうことで。」

「おおつとやえつちさん！？褒めたらこれですか！？何故帰るつと
するんでいすか！？」

「次から頑張る。」

「次回からですか！？来月までもう待てないでござるよー頼むでい
ざるよー。」

「……はあ。」

「いつまで二人でイチャイチャしてるのー。お菓子全部食べちゃう
よー？」

「ちよつとちよつと！そちら姉妹は何故もお菓子を開けてるんだ
よ！？湿気るよ、全部開けたら湿気つちゃうよ！」

「私はほとんど手を付けてないけどな。」

「あ、そっかー。」

「おお、姉。流石姉。分かったらペースを抑えてゆつくりとだな」

「……その前に食べきつちやえば。じゆるり。」

「妹ー！コイツ馬鹿だー！止めてくれー！」

「カナミ、姉貴を馬鹿扱いすんなや。」

「すんませんっした！」

「まあ、今回は姉貴が喰い過ぎだな。ほりゃ。」

「うっ。返してー？」

「……太るぞ（ボソッ）」

「やえー。とつきーがいじめるー。」

「どっこい。」

「えー？なーにー？」

「どっこいどっこい。」

「とつきー。やえがいじめるー。」

「姉貴、しっかりしてくれ……。」

「今度は私をほっぽらないでくりゃれー！！オラー！！！」

「うわっ」

「ぎゃー」

「なにをするやm」

「ふははは！我が家のフカフカ枕（お客様用）をくらえー！」

「……馬鹿。」

「きゃー。ふつかふかー。」

「カナミ、てめえ。誰に枕をぶつけたと思ってるんだ？とつきーこの時様にぶつけて五体満足でいられふぐつ。」

「『ふぐつ』で。やめてよとつきー、スプラッタ系だと一番最初にやられるヤツのセリフだよー。」

「とつきー、死んじゃダメー。」

「シスコン。」

「大丈夫だ姉貴！私は簡単には死なん！いや、死ねないと言つべきか……」

「何そのキャラ!?」

「ほうほう、詳しく。」

「やえつちが珍しく喰いついた!？」

「これだけは言えないんだ。身内だけの秘密なんだ。すまないな、やえ。」

「私それ知らないよー？」

「ぶち壊したー！流石ひよりさんや！私たちに出来ないことを」

「なるほど、後継者にしか語られない秘密というわけか。……ハッ

！?もしかしたら教えられてないだけでひよりにも、ときと同じ力が!？」

「やえつち、いったん落ち着こうか!？」

「やえ、お前は知りすぎた。ここで舞台から退場してもらおうか!」

「私になん力もないとお思いか?それはとんだ勘違いだな。」

「二人ともやめて!」

「ひより!？」

「姉貴!？」

「私が……私が我儘を言わずに後継者として家を継げば、誰も争わないんだ。ごめんね、私、もうみんなが傷つくの見たくないよ。」

「馬鹿めっ!」

「ふぐう」

「姉貴ー!!!」

「敵に背を向けるとは、素人か？貴様の姉は。」

「……やえ。てめえはやっっちゃいけないことをした。」

「フフフ。なんだ、姉を始末されて気でも狂ったか？この使えない姉をかー!?」

「私は怒ったぞー!!!!!!」

「よろしい、ならば戦争だ。」

「この壺は良い壺だ……」

「色々ストップだお前ら。」

「君たち、ノリノリじゃないか。このカナミちゃんが寸劇についてけないうちにくぐぐい行き過ぎだよ。その前にやえっちゃん。」

「……何？」

「テンション違いすぎだよ！何かが乗り移ってたのか！憑かれてたのか!？」

「……別に。」

「ガツテム!とつきーは別段いいとして」

「なんだその扱い!？」

「ひよりさん、あなたはおっとりキャラだと思ってたのに……。」

「カナミちゃん。私えんげき部ー。」

「ああすっかり忘れてた。バイオレンスな妹の印象に隠れてて。」

「とつきー。カナミちゃんに地味って言われたー。」

「てめえカナミ」

「はいはい、ループループ。」

「さつき憑かれてるか、と聞かれたが、考え方を7次元的に考えるのであれば、かの大戦の英雄と呼ばれる彼の能力は、この次元における憑かれている、というのと酷似しているようだが、霊魂という存在は未確認ゆえに同一ではないにしろ似た何かではあると言える

だろう。」

「黙ってると思ったら電波受信してただけだったでござるの巻！ 靈魂とかいいから！ やえっち、シヤラップ！」

「でも靈魂の概念は」

「靈魂でもヤーコンでももうなんでもいいから！！！」

「ヤーコンっていうのはな、南米の山脈の方でとれる根菜類の一つでな、ちよつと渋いけどしゃきしゃきして甘みもあるから生でも食えるんだぜ。」

「とつきー物知りー。」

「ボケの説明はやめてくれ！ つーかとつきー頭いいな！」

「もう眠ーい。おやすみー。」

「どこまでもマイペースなひよりさんに尊敬の念すら覚える！」

「……私も。」

「やえっち脱落ー！ そんな気はしてたのよ！ もうね、ガツカリもしないわ！ ねえとつきー？」

「……寝てる……。」

「みんな、気持ち良さそうな寝息立てちゃって。うふふ。」

「第二次枕大戦勃発じゃばけかすくらー！！！」

第一回満月集会はここでお開き。

いつかいぬ。(後書き)

ゆるゆるーっと続きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9714q/>

満月集会

2011年2月16日22時10分発行